

新聞記事をもとに 「1分間スピーチ」

「新聞スクラップ」に次いで「NIEタイム」で行われることの多い活動です。「1分間スピーチ」や「1分間プレゼン」と呼ばれ、小学校から高校まで、発達段階に応じていろいろな形で行うことができます。時間も「30秒」から可能ですが、逆にたっぷり「3分間」で行っている学校もあります。

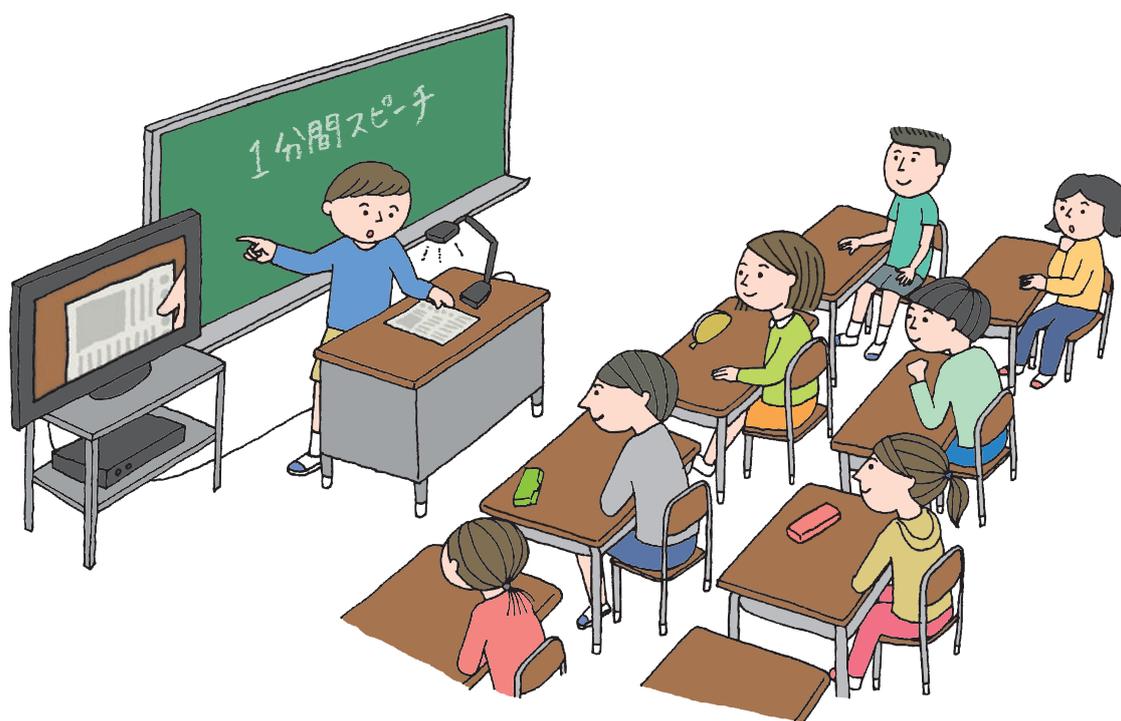
(1) 小中学校の場合、その日の日直（ほとんどの場合2人）が担当することが多いようですが、係活動の日直とは別に、出席簿順とか、班ごととか、2人ペアでとか、希望順とか、さまざまなローテーションが可能です。1回の人数も、1人から3人ぐらいまで、これに当てることのできる時間に応じて加減できます。ただ、スピーチを聞いた後の、質問や意見のやりとり、教師のコメント、一言感想を書くなどの活動を入れるとなると、1回1人、多くて2人が精一杯でしょう。

以上の方式では、発表の順番がなかなか回ってこない、意見交換の機会や時間も限られるとい

う弱点があります。その解決法の一つとして、生活班やグループ内で発表し合うという方式も考えられます。全体会とグループ（分科会）とを交互に行ったり、グループの代表が全体に発表したりと、いろいろなバリエーションが可能です。

(2) 取り上げる記事は、発表者に全て任せる場合と、あらかじめ定めた大テーマの枠内で探させる場合が考えられます。テーマの例としては、「今日のお勧め記事」「私のトップニュース」「この人に注目」などのおおざっぱなものから、「国際ニュースから探そう」「これでいいのかと思う出来事を見つけよう」「中学生が関わっているニュース」「お仕事発見」「環境問題」「進路を考える」などのテーマを、ある期間限定で定める方法があります。

(3) 1分間で話せる字数は、300字前後です。事前にスピーチ原稿を書く場合は、300字を目安



にさせるとよいでしょう。自分用のメモだけで臨んでも構わないと思います。いずれの場合も気を付けなければならないのは、原稿やメモに引きずられて、それをただ読むだけの発表になりがちなことです。あくまでも、この活動の主なねらいは「スピーチ」「プレゼンテーション」の力を育んでいくことです。できるだけ「原稿なし」または「メモをチラチラ見ながら」、顔を上げ、聞き手の方を向き、反応を見ながら話をする習慣をつけていきたいと思います。

- (4) スピーチの内容や組み立ては、基本的に子供自身に任せてよいと思いますが、あらかじめ基本のパターンを定めておくという方法もあります。
- ①記事の概要の紹介（何について報じられているかというテーマと記事の要約）
 - ②どうしてその記事を選んだかという理由（興味関心、自分なりの意味づけ）
 - ③その記事に対する自分の感想や考え（可能ならば賛成・反対の表明も）
- (5) 「30秒てきぱきプレゼン」を提唱している斎藤孝・明治大学教授は、
- ①メインメッセージ（見出しをもとに）

- ②補足情報（なぜ？どうということ？）
 - ③影響や意義など（どんな効果？）
 - ④コメント（なぜこの記事を選んだのか？ どう思った？ 賛成・反対やアイデア）
- の4項目からなるワークシートをモデルとして提示しています。

（斎藤孝『新聞で学力を伸ばす』朝日新聞出版、2010）

- (6) 人前で話をするのが苦手な子供がいます。それ以前に、話の素材となる新聞記事をなかなか見つけられないという子もいます。この時間が大きな苦痛となったり、人前で「恥をかく」体験にならないような配慮が必要です。教師が事前に相談に乗ったり、ヒントを出したり、ときには練習に付き合ったり、サポート役の子供を付けたりと、「大変だったけど、やってよかった」「成長が実感できた」体験になるようにしてあげたいものです。
- (7) 終了後、取り上げた新聞記事の切り抜きを、原稿があればそれとともに、教室内に掲示するとよいと思います。それに付箋を貼るなどして、コメントを書けるようにし、友達同士の感想交流が図れるとよりよいでしょう。